

第4学年*組 国語科学習指導案

指導者 渡邊 貴紀

1 単元名 二つのものをくらべてまとめよう 「くらしの中の和と洋」

2 単元の目標

- 内容の中心を捉えたり段落相互の関係を考えたりしながら、文章を読もうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- 自分の解決すべき課題に応じて、中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えて文章を読むことができる。
(読む能力)
- 指示語や接続語が段落相互の関係に果たす役割を理解し、文章を読むことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 児童観

本学級の児童に対して、「ヤドカリとイソギンチャク」(東京書籍 第4学年)の本文を提示し、中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えて文章を読む活動を行った。

- ・中心となる語や文を的確に捉え、段落相互の関係を考えて文章を読むことができた。 …*人
 - ・中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えて文章を読むことができた。 …*人
 - ・中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えて文章を読むことができなかつた。 …*人
- (実態調査 平成*年*月*日 4年*組 男子*人 女子*人 計*人)

このことから、本学級の児童は、中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えて文章を読むことに課題があることが分かった。そのため、今後は、中心となる語や文を捉え内容を整理する学習活動を工夫し、段落相互の関係を考えて文章を読む力を育てる指導が必要であると考える。

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の「C読むこと」の指導事項イ「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」を受けて指導する。教材文「くらしの中の和と洋」は、和室と洋室の違いや良さについて、対比しながら説明している文章である。また、文章全体が「はじめー中ー終わり」という構成になっていることから、児童にとって全体の構成が捉えやすい文章であるといえる。本教材の読みを通して、児童は、二つの事柄を対比させながら説明する文章における、段落相互の関係を考えて文章を読むことができると考える。

(3) 指導観

本単元では、「二つのものをくらべてまとめよう」という言語活動を行う。まず、児童は、教材文を読んで中心となる語や文に注目し、段落ごとに要点をまとめ内容を整理する。この活動を通して、中心となる語や文から段落ごとに書かれている内容を捉えることができるようになる。次に、文章の書かれ方に着目し、整理した内容を基に、段落相互の関係を図に表す活動を通して、段落相互の関係を見いだすことができるようになる。ここまで活動を、1単位時間の前半で教材文を用いて行い、後半で自分の解決すべき課題に適用するという形で進めていく。そして、段落相互の関係を表した図を基に、児童自身が二つの事柄について比べたことを、文章全体における段落の役割を考えながらまとめる活動を通して、段落相互の関係を捉えることができるようになる。このように、中心となる語や文を捉え内容を整理する学習活動を工夫すれば、段落相互の関係を考えて文章を読む力が育つであろうと考える。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
内容の中心を捉えたり段落相互の関係を考えたりしながら、文章を読もうとしている。	自分の解決すべき課題に応じて、中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えて文章を読んでいる。	指示語や接続語が段落相互の関係に果たす役割を理解し、文章を読んでいる。

5 指導計画（10時間扱い）

次	時	学習活動・内容	指導上の留意点と評価（○）
一	1	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>二つのものをくらべてみよう。</p> <p>2 教師が作成した「究極のせんたく あなたのお好みはどっち？」のモデルを用いて、単元の具体をつかむ。</p> <p>(1) 「夏と冬のちがい」の朗読を聞いて、どちらが好みか考える。</p> <p>(2) 各自分が選択した結果を集計し、全員で確認する。</p> <p>3 和室と洋室の違いを比べる。</p> <p>(1) 隣同士でペアになって、和室と洋室を比べ、違いを一つずつ短冊に書く。 和室：たたみ、座布団、かげじぐ 洋室：じゅうたん、いす、花びんなど</p> <p>(2) 短冊を黒板に掲示していく。</p> <p>(3) 黒板を見ながら、このままの形で和室と洋室の違いが伝わりやすいといえるか話合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまりがないと伝わらない。 ・ちがいを整理すると伝わりやすい。 <p>4 教材文を読んで、二つの事柄について比べたことが分かりやすくまとまっていることに気付く。</p> <p>(1) 範読CDを聴きながら、教材文の内容を読む。</p> <p>(2) まとまりのある文章だと、比べたことが分かりやすく伝えられるか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまりのある文章だと分かりやすい。 ・「暮らしの中の和と洋」がお手本になる。 <p>5 単元の学習課題をつかむとともに、本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードで単元の見通しを持つ。 ・本時の振り返りを記入する。 	<p>○これから「二つのものをくらべてまとめよう」という学習を行っていくことを伝えることで、今後の学習活動への期待が持てるようにする。</p> <p>○モデルを提示する場面では、教師が朗読するだけでなく、拡大したものを掲示することで、内容をつかみやすくする。</p> <p>○ホワイトボード上に、自分が選んだ方に個人のネームシートを貼っていくことで、児童が意欲を持って活動に参加できるようにする。</p> <p>○ペアごとに和室と洋室の写真を配ることで、両者の違いを比べることができるようする。</p> <p>○児童の発言から、ただ並べただけでは比べたことが伝わりにくいことに気付けるようする。</p> <p>○話し合いを通して、まとまりのある文章だと、比べたことを分かりやすく伝えられることに気付かせる。</p> <p>○話し合ったことを基に、教材文の書かれ方が自分たちの課題解決に生かすことができる事を確認し、教材文を読む目的を持てるようする。</p> <p>○学習カードを配付し、単元の見通しを持たせると共に、書き方を伝えて本時の振り返りを書くことができるようする。</p> <p>○二つの事柄について比べようとしている。 (関観察、学習カード)</p>
二	1	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>「暮らしの中の和と洋」を読んで、「和」と「洋」に関係のある言葉を見つけよう。</p> <p>2 形式段落を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範読CDを聴きながら、教材文プリントに各自で形式段落の番号を付けていく。 ・全体で確認する。 <p>3 「和」と「洋」のそれぞれに関係する語を見つける。</p> <p>(1) 「和」の語を赤丸で、「洋」の語を青い四角で囲む。</p> <p>(2) 「和」に関係する語は丸で囲み、「洋」に関係する語は四角で囲む。</p> <p>(3) 全体で確認した後、赤と青で色分けする。</p> <p>(4) ワークシートへ、形式段落ごとに「和」と「洋」の両方またはどちらかの語が見つかったかを書き込む。</p> <p>「究極のせんたく あなたのお好みはどっち？」で、くらべるものを見つける。</p> <p>4 比べる事柄について考える。</p> <p>(1) 比べる事柄を決める時に気を付けるとよいことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で比べることができるもの ・自分がよく知っているもの ・自分が好きなものや好きなこと <p>(2) 比べる事柄が決まったら、ワークシートに書き出す。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○前時の活動を通して、二つの事柄を分かりやすくまとめる際、教材文の書かれ方が手本になると確認したことにもう一度触れ、本時の学習活動への意欲を高める。</p> <p>○形式段落に番号を付けられない児童がいた場合は、一字文字分下がっている箇所に注目するよう助言することで、形式段落を見つけることができるようする。</p> <p>○「和」と「洋」に関係する語については、まず鉛筆で囲み、全体で確認した後に赤と青で色分けすることで、児童が自信をもって活動できるようする。</p> <p>○形式段落ごとに「和」と「洋」のどちらに関係する語が出てくるか、ワークシートで整理することで、内容の大体を捉えることができるようする。</p> <p>○文章を読んで、「和」と「洋」に関係する言葉を捉えている。 (読観察、プリント)</p> <p>○事柄を決定する際のポイントを確認することで、児童が比較できる事柄を考えられるようする。</p> <p>○自己決定できない児童がいた場合は、比べる事柄の例を示した一覧表を掲示し、その中から比べる事柄を選んでよいことにして、全員が決定できるようする。</p>
	2	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>だん落ごとに、書かれている内ようをまとめよう。</p> <p>2 段落ごとに要点をまとめる。</p> <p>(1) ①②段落を読み、全員で手順を確認しながら、要点をまとめる。</p>	<p>○前時では、形式段落ごとに「和」と「洋」に関係のある言葉に注目したことを確認することで、本時でも形式段落への意識を持たせるようする。</p> <p>○要点をまとめ手順を掲示物で示すことで、どの児童も要点をまとめることができるようする。</p>

	<p>(要点のまとめ方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、いくつの文できているか確認する。 ・次に、その中で中心となる文を探す。 ・最後に、キーワードをもとに短くまとめる。 <p>(2) ④⑥⑪段落を読み、各自で要点をまとめる。 (3) 全体で確認する。 (4) ③⑤段落を読み、要点をまとめる。 (5) 全体で確認する。</p> <p>二つのものをくらべて、ちがいを見つけよう。</p> <p>3 二つの事柄を比べ、違いをワークシートに書き出していく。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○まず、読み手を促したり、読み手に問いかけている段落(④⑥⑪)の要点をまとめさせることで、文章全体の大体を捉えさせ、その他の段落の要点をまとめやすくする。</p> <p>○個人で取り組んだ後に全体で確認するという流れを繰り返すことで、要点をまとめることができるようになる。</p> <p>⑩中心となる語や文を捉え段落ごとに要点をまとめている。 (読観察、ワークシート)</p> <p>○違いが見つけられない児童には、「(事柄A)といえば～、(事柄B)といえば～」と考えていくとよいと助言することで、それぞれの違いを書き出すことができるようになる。</p> <p>○机間指導の中で、児童が比較できることを書き出しているか確認する。</p> <p>⑩二つの事柄の違いを見分けている。 (読観察、ワークシート)</p>
3	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>だん落ごとに、書かれている内ようをまとめよう。</p> <p>2 段落ごとに要点をまとめる。</p> <p>(1) ⑦⑧⑨⑩段落を読み、各自で要点をまとめる。 (2) 全体で確認する。 (3) ⑫⑬⑭⑮段落を読み、各自で要点をまとめる。 (4) 全体で確認する。</p> <p>見つけたちがいを文章に表そう。</p> <p>3 前時に書き出した二つの事柄の違いを、文章でまとめていく。</p> <p>(1) 中心となる語を決めて、文章にまとめる。 (2) 複数のちがいを中心に文章をまとめる。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○前時同様、要点をまとめの手順を掲示物で示すことで、各自で手順を確認することができるようになる。</p> <p>○個人で取り組んだ後に全体で確認するという流れを繰り返すことで、要点をまとめることができるようになる。</p> <p>⑩中心となる語や文を捉え段落ごとに要点をまとめている。 (読観察、ワークシート)</p> <p>○前時に書き出した違いを中心となる語として、文章でまとめていくことを確認し、教材文で要点をまとめた活動をいかせるようになる。</p> <p>○ここでまとめた文章が、段落をつくる時のものとなることを伝え、児童が見通しを持って取り組むことができるようになる。</p> <p>⑩中心となる語を考え文章にまとめている。 (読観察、ワークシート)</p>
4 (本時)	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>だん落ごとに内ようを整理しよう</p> <p>2 段落ごとに内容を整理する。</p> <p>(1) 内容の整理の仕方について、全体で確認する。 (2) ①②③段落の内容について全体で話し合う。 (3) 他の段落の内容について、各自で、一覧表の中からふさわしい言葉を選ぶ。 (4) グループの友達と確認する。 (5) 全体で確認する。</p> <p>くらべたちがいを整理しよう</p> <p>3 前時にまとめた文章の内容を短い言葉でまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心となる語を抜き出す。 ・中心となる語が複数ある時は、それらをまとめて表す語を考える。 <p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○本時の活動では、段落ごとの要点から中心となる語を抜き出したり、段落の役割を短い言葉で表したりすることで、内容が整理できることを確認する。</p> <p>○まず、①②③段落の内容について考えていくことで、児童がそれ以外の段落の内容を整理することに見通しが持てるようになる。</p> <p>○教師が提示した語句の一覧表の中から、各段落の内容にふさわしいものを選択させることで、児童が内容を整理する手がかりとすることができるようになる。</p> <p>○グループ及び全体での確認場面では、どの語や文に注目して選択したのかも述べるようにすることで、中心となる語や文を整理することができるようになる。</p> <p>⑩中心となる語や文を捉え段落の内容を整理している。 (読観察、ワークシート)</p> <p>○教材文での活動をいかし、自分の書いた文章を、中心となる語を抜き出すなどしながら、さらに短い言葉でまとめるよう指示する。</p> <p>⑩中心となる語や文を捉え内容を整理している。 (読観察、ワークシート)</p>
5	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>だん落同士の関係を図に表そう</p> <p>2 教材文における段落相互の関係を捉え、図に表す。</p> <p>(1) 全体で、図に表す手順を確認する。 (2) 教材文全体を、はじめー中ー終わりに分ける。 (3) 「中」の部分を、さらに三つに分ける。 (4) 段落同士の関係について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・⑦と⑧、⑨と⑩の関係…内容を受け足している。 ・⑫と⑬の関係…「和」と「洋」を比べている。 <p>(5) 個人で(2)～(4)で確認したことを図に表す。 (6) 隣同士でペアになって、段落相互の関係を表す図を作成する。</p>	<p>○段落相互の関係は文章中に言葉で説明されていないので、目で見て確かめられる形にすることで捉えやすくなることを説明し、目的を持って本時の活動に取り組めるようになる。</p> <p>○累加の関係は「+」で、並列の関係は「↔」で表すことで、段落相互の関係を視覚的に捉えられるようになる。</p> <p>○累加・並列や対比の関係を考えながら、段落相互の関係を表す図を作成している。 (読観察、図)</p>

	<p>だん落同士の関係を図に表そう。</p> <p>3 累加・並列や対比の関係に注意しながら、図を作成する。 (1) 文章ごとに短くまとめた言葉を短冊に書き写す。 (2) 段落同士の累加・並列や対比の関係に注意しながら、短冊を並べていく。 (3) 短冊の内容を基に、大きなまとまりをつくる。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○教材文での活動をいかし、累加・並列や対比の関係になるように段落と段落を並べていくよう助言することで、図が作成できるようにする。</p> <p>◉累加・並列や対比の関係を考えながら、段落相互の関係を表す図を作成している。 (読観察、図)</p>
6	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>だん落同士の関係を図に表して整理しよう。</p> <p>2 ペアごとにまとめた図を発表し合う。 (1) 自分達の図の工夫点を述べる。 (2) 聞き手から、図に関する質問がないか確認する。 (3) 発表を通して気付いたことなどを基に、学級全体で、最もふさわしい図の形について話し合う。 (4) 「+」や「↔」の部分は、どんな言葉で置き換えることができるか考える。</p> <p>だん落同士の関係を図に表して整理しよう。</p> <p>3 前時に作成した図を見直し、必要な事柄を付け加えたり書き直したりする。 (1) 問いかけや呼びかけの文章を付け加える。 (2) 段落の並び順を入れ替える。 (3) 段落同士をつなぐ言葉を付け加える。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○累加・並列や対比の記号が適切に使えていれば、それ以外の部分は各グループの工夫を認めることとする。</p> <p>○話合いを通して確認した図の形を「4の*スタイル」と名付けることで、自力解決の場面での参考とすることがができるようする。</p> <p>○最後に、段落と段落をつなぐ語を書き加えることを通じて、指示語や接続語が段落相互の関係に果たす役割を理解することができるようする。</p> <p>◉文章全体における段落の役割を考えながら、段落相互の関係を表す図を完成させている。 (読観察、図)</p> <p>○全体の話し合いを通して確認した図の形を参考にするよう助言することで、前時に作成した図について補足する部分や修正点に気付くことができるようする。</p> <p>◉文章全体における段落の役割を考えながら、段落相互の関係を表す図を完成させている。 (読観察、図)</p>
7	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>作成した図をもとに、くらべたことをまとめよう。</p> <p>2 前時に完成させた図と第二次第3時のワークシートを見ながら、二つの事柄について比べたことを文章にまとめる。 (1) ワークシートにある文章を、図に並べた順番で原稿用紙にまとめていく。 (2) 段落と段落をつなぐ言葉を付け加える。</p> <p>3 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○「はじめ」と「終わり」の部分は定型文を写すこととし、「中」の部分のまとめ方について各自で考えいくことにする。</p> <p>○前時の活動で図に付け加えた指示語や接続語に注目させることで、段落相互の関係に応じて、適切な指示語や接続語を使うことができるようする。</p> <p>◉指示語や接続語が段落相互の関係に果たす役割を理解している。 (言観察、原稿用紙)</p> <p>◉文章全体における段落の役割を考えながら、比べたことを文章にまとめている。 (読観察、原稿用紙)</p>
8	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>作成した図をもとに、くらべたことをまとめよう。</p> <p>2 二つの事柄について比べたことを文章にまとめる。 (1) 図やワークシートを見ながら文章にまとめる。 (2) 完成させた文章を見直す。</p> <p>3 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○前時に確認した、図から文章にまとめる際のポイントをもう一度確認することで、活動に見通しが持てるようする。</p> <p>○図に示した段落相互の関係と文章中の段落相互の関係が合っているかという視点で、自分の文章を見直すよう伝えることで、段落相互の関係を考えることができるようする。</p> <p>◉文章全体における段落の役割を考えながら、比べたことを文章にまとめている。 (読観察、原稿用紙)</p>
三	<p>1 1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>友達と、まとめたものを読み合い、お好みを答える。</p> <p>2 まとめたものを、友達と読み合う。 (1) グループの友達と読み合う。 ・友達とまとめたものを読み合い、お好みを回答し合う。 ・お互いのまとめ方について、感想やアドバイスを付箋に書いて渡し合う。 (2) たくさんの友達と読み合う。 ・友達とまとめたものを読み合い、お好みを回答し合う。 ・お互いのまとめ方について、感想やアドバイスを付箋に書いて渡し合う。</p> <p>3 単元の学習を振り返る。 (1) 各自の学習カードで、本時の活動と単元全体の活動の振り返りを行う。 (2) 全体で、振り返りを行う。</p>	<p>○本時は、特別教室で活動することで、児童同士が自由に動けるようにし、積極的に互いの文章を読み合うことができるようする。</p> <p>○本時の活動の流れと、読後にどのような観点で感想を述べたらよいか全体で確認することで、本時の活動への見通しを持つことができるようする。</p> <p>○回答用紙には、お互いシールを貼るようにすることで、児童が意欲的に活動できるようする。</p> <p>○友達の文章を読む時には、段落相互の累加・並列や対比の関係にも注目するよう伝えることで、児童がこれまでの学習を生かすことができるようする。</p> <p>◉段落相互の関係を考えて、友達の文章を読んでいる。 (読観察、アドバイスカード)</p> <p>○何人かの児童に、単元を通して学んだことを発表させることを通して、全体で本単元のまとめができるようする。</p>

6 本時の指導

(1) 目標

段落ごとに中心となる語を抜き出したり内容を短い言葉で表したりする活動を通して、中心となる語や文を捉え段落の内容を整理することができる。

(2) 準備・資料

ワークシート、選択肢を示した掲示物

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点と評価
<p>1 本時の学習課題を確認する。 だん落ごとに内容を整理しよう。</p>	<p>○本時では、中心となる語を抜き出したり短い言葉で表したりしながら、段落ごとの内容を整理していくことを確認する。</p>
<p>2 段落ごとに内容を整理する。 (1) 内容の整理の仕方について確認する。 (2) ①②③段落の内容について、全体で話し合う。 (3) ④段落以降の内容について、一覧表の中からふさわしい語句を選ぶ。</p>	<p>○①②③段落の内容について全体で話し合うことで、それ以外の段落の内容を整理することに見通しが持てるようになる。 ○教師が提示した一覧表の中から、各段落の内容を表す語句を選択することで、児童が内容を整理することができるようになる。 ○語句を選択できない児童には、段落ごとに要点をまとめる際に、各段落のどの語や文に注目したかワークシートで確認するよう助言し、語句選択の手がかりを持てるようになる。</p>
<p>(4) グループの友達と話し合う。 (5) 全体で確認する。</p>	<p>○グループでの話し合い及び全体での確認場面では、どの語や文に注目して語句を選択したのかも伝えるよう指示することで、中心となる語や文から段落の内容を整理することができるようになる。</p>
<p>くらべたちがいを整理しよう。</p>	<p>段落ごとに中心となる語を抜き出したり内容を短い言葉で表したりする活動を通して、中心となる語や文を捉え段落の内容を整理している。（読観察、ワークシート）</p>
<p>3 前時にまとめた文章ごとの内容を、短い言葉で表す。 (1) 後半の学習課題を確認する。 (2) 文章ごとの内容を短い言葉で表す。</p>	<p>○教材文での活動を生かし、自分の書いた文章を、中心となる語を抜き出すなどしながら、更に短い言葉で表すよう指示する。 ○文章の内容を短い言葉で表すことができずいる児童には、2(3)で示した選択肢を参考にしながら考えてみるよう助言することで、活動を進めることができるようになる。</p>
<p>4 本時の学習の振り返りをするとともに次時の学習の見通しを持つ。 ・段落ごとの要点をもとに、内容を整理することができた。 ・短い言葉で、文章の内容を整理することができた。</p>	<p>前時にまとめた文章の内容を短い言葉で表す活動を通して、中心となる語や文を捉え内容を整理している。（読観察、ワークシート）</p>
	<p>○次時では、整理した内容を基に、段落相互の関係を図に表していくことを伝え、学習の見通しを持てるようになる。</p>